

1 環境教育、広報啓発の現状・課題

○「新循環のまち・ふくおか基本計画」

では、ごみ減量・リサイクルに取り組む市民・事業者のリーダーなど、人材の育成に向けた「環境教育・学習機会の提供」や「実践につながる情報発信」を行い、「人づくり」に取り組んでいる。

「人づくり」の具体的な施策

①環境教育・学習機会の提供

・出前講座・環境わくわく出前授業 等

②表彰・認定制度

・環境行動賞・優良事業者の紹介 等

③ごみ分別等に関する啓発・指導

・拠点での資源回収、地域ぐるみ清掃 等

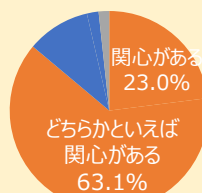
④情報発信

・環境局HPやフェイスブック 等

令和元年度アンケート結果

ごみ減量・リサイクルへの**関心度** ←ギャップ→ ごみ減量・リサイクルへの**取組状況**

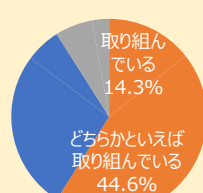
86.1%



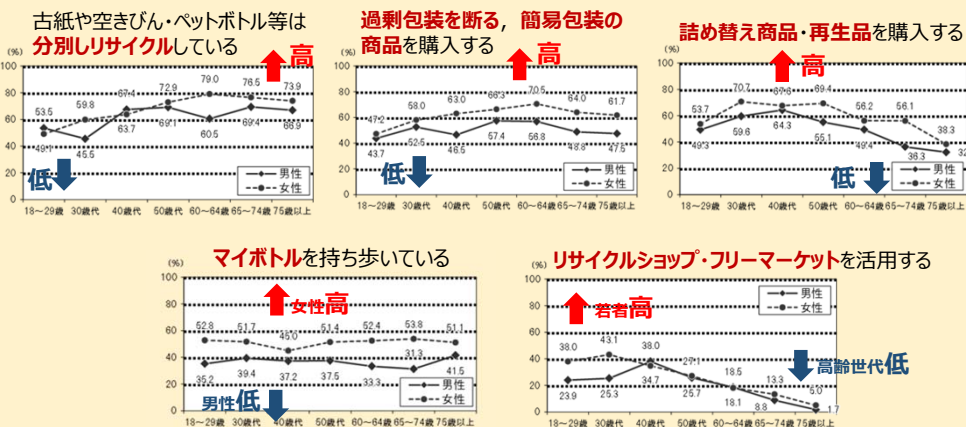
<課題①>

「**関心**」が「**実践**」につながらっていない

58.9%



性別・年齢別 ごみ減量・リサイクルの実践度



<課題②> 性別・年齢でごみ減量・リサイクルの**実践内容は異なる**

課題①・②を踏まえ、ターゲット(年代、ライフスタイル等)に応じた市民の実践行動につながる広報啓発が必要

2 ターゲット別の傾向等を踏まえた今後の方向性(案)

○幼児・小学生

既存の施策	幼児・小学生の傾向及び教育環境
・環境わくわく出前授業 ・環境副読本 ・エコクッキング講座 ・子ども向けHP「エコッパとあそぼう」 ・環境行動賞	・好奇心が強い ・保護者や先生等の大人の影響を大きく受ける ・学校教育にICT環境が導入されている ・学校で体験的な学習ができている

幼児・小学生の「望む姿」

・日常での行動が環境に与える影響を理解し、身近な生活の中で自分たちにできることの実践が進む。

・教員等が環境に関する正しい知識を持ち、子どもたちへ積極的に環境教育を実施している。

今後の方向性(案)

・子どもが興味を持つコンテンツ(ゲーム・動画・SNS)を環境教育に活用する

・指導者への環境教育を充実させる。

○中学生・高校生

既存の施策	中学生・高校生の傾向及び教育環境
・出前講座 ・工場見学の受け入れ ・環境行動賞	・「環境」=「ダサい」という意識 ・行動範囲が広い ・勉強や部活に忙しく環境教育の時間がない ・学園祭等の生徒主導のイベントがある

中学生・高校生の「望む姿」

・小学生までに身に着いた環境意識が継続し、環境に関する実践行動が継続される

・部活や委員会単位での環境活動が行われる

今後の方向性(案)

・インフルエンサーなどを活用した広報を行い、環境のイメージアップ「かっこいいこと」という意識付けを図る

・生徒参加型の学校行事で活用できるコンテンツを提供する

○若者（大学・新社会人など）

既存の施策	若者の傾向及び啓発の状況
・エコ発する事業（U-30等） ・環境フェスティバル ・環境行動賞	・SNSで情報を入手する ・「<u>便利さ</u>」「<u>簡単さ</u>」を重要視する ・海外への興味関心が高い ・<u>アルバイトや就職を通じて社会について学ぶ</u>

若者の「望む姿」

- ・自分のコミュニティで環境に関する活動を広めていくことができる
- ・サークル等で環境活動に取り組み、他団体との交流が広がる

今後の方向性（案）

- ・引き続き、環境活動が「カッコいいこと」という意識付けを図る
- ・社員やアルバイト教育で活用できる環境教材・機会を提供する

○成人（環境意識が高い層）

既存の施策	成人（環境意識が高い層）の傾向及び啓発の状況
・3Rステーションでの各種講座 ・環境行動賞 ・環境局HP ・エコ発する事業 ・環境フェスティバル ・地域ぐるみ清掃推進事業	・発信力にばらつきがある ・<u>既存の団体において、若者の参加が少ない</u> ・<u>自分たちの知識や経験を発揮する場が少ない</u>

成人（環境意識が高い層）の「望む姿」

- ・引き続き環境活動を実施し、ライフワークとしている
- ・環境活動を周囲の人へ広めていくことができる

今後の方向性（案）

- ・個人同士（特に若者の参加増）をマッチングさせ、団体として活躍する場やしきみを作る
- ・継続した環境活動をサポートできるような制度を作る

○成人（無関心層）

既存の施策	成人（無関心層）の傾向及び啓発の状況
・市政だより ・環境局HP ・環境フェスティバル	・<u>経済性、効率性、楽しさを重視する</u> ・<u>ルールを守らなくてもあまり気にしない</u> ・他人の目が気になり、マイノリティになりたくない

成人（無関心層）の「望む姿」

- ・環境について自分事として考えることができる
- ・環境に関する取り組みのきっかけづくり・インセンティブが用意されている

今後の方向性（案）

- ・ターゲットが興味を示す物事・イベントに関して環境の視点を盛り込む
- ・環境への意識がなくても取り組み意欲が湧くようなインセンティブを盛り込む（ポイント制度）
- ・日常生活が環境に関わっていることに気づいてもらう

○事業者

既存の施策	事業所の傾向及び啓発の状況
・出前講座 ・環境行動賞 ・事業系ごみ資源回収推進事業 ・環境局HP	・<u>会社の方針や計画に基づき、統率された行動をする</u> ・営利性を重視する ・<u>CSR活動が社会から認められつつある</u>

事業所の「望む姿」

- ・従業員への環境教育が当たり前になっている
- ・環境に配慮している会社が社会全体から評価されている

今後の方向性（案）

- ・事業者の形態や規模に合わせた環境活動を紹介する
- ・企業が環境活動に取り組むことのメリットを周知する

➡ いただいたご意見を踏まえ、ターゲットに応じた環境教育・広報啓発の施策の検討を進める